

令和3年度大阪府立八尾支援学校 第1回学校運営協議会報告

□日 時 令和3年7月5日(月) (表決書ご提出期限)

□場 所 書面開催

□出席者 ◆委員6名、校長、准校長、事務局10名 計18名

□次第と協議内容(要約)

○八尾支援学校 学校運営協議会 規約 (説明)

【設置及び目的、学校運営に関する基本的な方針の承認、職員の採用・その他の任用に関する意見の取扱い、学校運営等に関する意見の取扱い、住民の参画の促進等のための情報提供委員の任期、守秘義務等、会長及び副会長、議事、会議の時期等、会議の公開、庶務】に関する第1条から第14条まで承認。

○令和3年度 学校運営協議会 会長・副会長の選出

委員の互選により、選出。

○令和3年度 学校経営計画案(報告)

①学校長より

*学校経営計画(全校及び小・中)

・めざす学校像は「子どもたちとともに『こころ』と『からだ』を育む学校」。
長期的視点に基づき昨年度から不変。

・中期的目標として、以下の3項目を挙げている。

「1 支援教育における専門性及び指導技術の向上」

「2 キャリア教育・進路指導及び魅力ある取組みの充実による自立や社会参加の実現」

「3 安全安心+快適に通い、楽しく過ごせる学校」

・目標達成に向けて、以下の4点を改善している。

① 下位目標に、<基礎的環境整備><教育の情報化>など、各項目にテーマを明記した。支援学校には、多様な児童生徒に対応する「基礎的環境整備」と、個々に対応する「合理的配慮」が必要である。具体的には各種の「支援計画」や「授業計画(シラバス)」は各学部のつながりの視点で「基礎的環境整備」として充実させることをめざす。

② 小学部から高等部まで一貫性の視点は、キャリア教育の取り組みを具体化するキャリアサポートプログラム(八尾商店)を通して具体化をめざすものとした。

③ 「教育の情報化・ICT機器の活用」を新しい時代に生きる児童生徒に必要な能力と位置づけ、全校的に取り組む。その為には、教員のICT活用スキルを高める必要があることを示した。

④ 「シームレス教育」の推進。コロナ禍で地域とのつながりが希薄になっている。地域支援において教育相談は維持できているが、居住地校交流や学校間交流など対学校、対地域に対する取り組みは今後できる限り発展させていく。

<質疑応答・意見・感想等>

意見・感想

- ・改善点として各項目にテーマを明記されたことで、何のために改善するかが具体的に理解でき、年度末の評価もより分かりやすくなったと感じた。
- ・コロナにより重要性が再認識された「情報化やICT 機器の活用」「地域とのつながり」について、重点目標に位置付けられていることは、大切なことだと考える。
- ・専門性の向上は、常に意識し続けなければいけない目標であると思う。我々も常日頃から心にとめておきたい。
- ・昨年度第3 回学校運営協議会で承認された学校経営計画について、さらに改善について検討を重ねられ、4点の具体的な改善点を挙げられていることに敬意を表すとともに、それらの進捗状況を次回協議会でお聞きするのを楽しみにしている。とくに「知的障がい教育」の大切な柱として、児童生徒の多様性に応じた合理的配慮提供に向けた基礎的環境整備の充実を図られることは、地域の学校の良きモデルとなることと期待している。
- ・まだまだコロナ感染の状況に不安があるなか、地域との連携等はたいへん難しい状況だと思う。この点についてもICT の活用が寄与する部分も大きいのではと思う。

ご質問およびご回答等

- キャリアサポートプログラム（八尾商店）を通じた小中高の一貫性のあるキャリア教育の具体化について、もう少し詳しくお聞きできればと考える。

⇒

- ・八尾商店（キャリアサポートプログラム）は、「一人一人が働く意義や目的を探求して自分なりの「勤労観・職業観」を形成、確立していく。」という目標のもと3ヶ年計画でスタートし、今年は3年目を迎えます。計画の1年目は、高等部が、「実践的・体験的な学習を通して日頃の学習の成果を出す。」ということで販売や喫茶を行いました。2年目は、「中学部が高等部からの商品づくりの依頼を受ける。」ということで、高等部の4つの班から中学部が仕事を受け、商品の包装など行いました。今年は、「小学部が高等部からの商品づくりの依頼を受ける。地域との繋がりを持つ。」ということが3年目の計画となっています。
- ・高等部からの仕事の依頼に関しましては、高等部の教員や生徒（去年は、密を避けるために生徒が説明に行くことはできませんでした。）が中学部に出向き、仕事の内容を説明し、中学部の数班の実習の授業で生徒に作業を行いました。また、その様子を八尾商店通信に掲載し、廊下にも掲示しました。
- ・今年度は、キャリア教育推進委員会が立ち上がり、本校におけるキャリア教育の目指す目標を、具体的に、明確に設定し、実践、評価し、改善していくことを目標として設置されました。昨年までは、八尾商店（キャリアサポートプログラム）の運営は高等部の1部の教員で担っていましたが、運営母体がキャリア教育推進委員会のなかの全校八尾商店実行委員会に移行し、拡大したことで、各学部間で目的の共通理解を図り、役割を明確にすることができ、また、全校で話し合っていくことができる基盤ができあがりました。
- ・現在、全校八尾商店実行委員会では、小、中学部共に高等部からの仕事の依頼を受けるとともにビジネスマナー等の練習を重ね、次年度は、中学部も、販売を視野に入れていくことなどを検討しています。
- ・今後は、八尾商店をスタートとし、そこから枝葉が伸び、本校独自のキャリア教育の基盤（大きな木）となり、将来身につけてほしい資質・能力を育み、卒業後を見据えた取り組みになるよう各学部で検討を重ねていきます。

- 家族は、小・中から将来のことを心配されていると思う。これまでも取り組まれていると思うが、安心して相談や頼ることのできる学校づくり、職員育成も大事かと思う。

⇒

- ・学校を卒業した後、将来の社会生活について切実な不安を感じられている保護者様が安心して相談できる学校であることは学校の大切な役割です。「学校経営計画」はそれを具体化するものでなければなりません。
- ・相談しやすい学校づくりは、以下のようなことをから取り組んでまいりたいと考えています。
 - ① 日ごろの教育活動をできるだけオープンにして、保護者様や関係者様からのご意見を受け入れやすいようにしておくこと。(基本的信頼関係の構築)
 - ② 教員は、社会に対して閉鎖的にならないように、地域や社会を知る機会、協働する機会を多くもつこと。(教員の資質向上、全校的なキャリアサポート体制)
- ・今後も学校運営協議会委員様からのご意見、アドバイスを賜りますよう、お願いいたします。

②准校長より

*学校経営計画(高) 中期的目標は(全校、小・中)とほぼ同じ以下の3項目。

「1 支援教育における専門性及び指導技術の向上」

授業力向上のため今後の取組みの方向性を明確にする。授業力向上PTの立ち上げ、授業見学週間の設定、教材バンク、授業アーカイブなど、担当分掌を中心に、既存の仕組みをさらに有効活用する。学校教育自己診断における「授業づくりに活用できる教材・教具を利用したことがある」の問いに対し、昨年度は教職員の肯定的な回答が56%であり、より校内での周知が必要である。

「2 キャリア教育・進路指導及び魅力ある取組みの充実による自立や社会参加の実現」

余暇を楽しむ能力を身につけるために、課外クラブを充実させたいと考える。高等部内だけでなく、中学部にも課外クラブの見学会や説明会などを実施して将来的な充実へとつなげていきたい。今すぐの実施は難しいと考えているが、将来的には中学部の生徒も一緒に活動できればより充実した活動ができるのではと思う。

「3 安全安心で活力あふれる組織及び学校作り」

教職員の人権感覚を高めるために人権研修を複数回実施する。

意見・感想

- ・新たに作り出すものと既存のものをどちらも活用するという視点が大切であると感じた。
- ・卒業後の進路について、コロナ禍において厳しい状況にあると思うが、学校として工夫や努力をしてくださっていることに感謝する。その中で、今年度は、「キャリア教育推進委員会」を立ち上げ、組織的・系統的なキャリア教育の方向性を明らかにされると示されており、その方向性は今後の具体的な取組みの指針となるものとして大変重要になると考える。
- ・ご着任早々にも関わらず、学校経営計画の中期的目標3項目について精査頂き、それぞれについて現状と課題を挙げておられることに敬意を表す。

- ・「2 キャリア教育・進路指導…」については、「余暇を楽しむ能力」の重視は今更ながらに大変大切な視点であると考え。貴校では過去には中学部生徒が課外クラブに参加されていた例があるとのこと、先生方のご負担を考慮しつつ、近い将来の実現を期待している。
- ・就労の目標値が出されているが、就職後の定着が大事になってきている。連携したアフターフォローを始め、本人の働く力(作業能力だけでなく)をどう高めていくか、また、家族の理解支援も必要と考える。

ご質問およびご回答等

- 「1 支援教育における専門性及び指導技術の向上」で挙げられている「授業力向上 PT 立ち上げ」について、これまでの支援教育部該当部署の取組みや新たな提案をお聞きできるのを楽しみにしている。また教材バンクや授業アーカイブの活用については、先生方への周知やコンテンツの共有や活用のしやすさ向上についてのご報告があることを期待している。

⇒

- ・教員の授業力向上を図る手立てとして、教職員向けの図書や支援グッズの購入、授業見学、授業記録(授業アーカイブ)などに取り組んできました。支援教育部担当者を中心に、今年度も引き続き、教員向け図書や支援グッズを購入し充実を図っています。
- ・新たな取り組みとしては、昨年度購入した教材「ファシリテーションボール」について、購入した教材を有効かつ積極的に活用できるよう、教職員を対象に使い方の研修会を行いました。授業アーカイブについても、授業づくりの一助となるよう初任者を対象とした勉強会で活用する予定です。毎年度の積み重ねによりライブラリを充実させていく必要があります。
- ・今後の授業力向上において重要となる ICT 機器の活用については、iPad での Zoom 研修のほか、外部講師による「Keynote」「OMELET」などを用いた教材、音楽及び動画作成研修を実施するなど、総務部 (ICT 関連部門) と連携しながら教員側の ICT 活用技術の向上を図る取り組みを進めています。

- 「情報モラル」や人権研修の内容や効果等についてもご紹介頂ければ幸いです。

⇒

- ・毎年年度初めには、全教職員対象の校内人権研修を実施し、体罰防止マニュアルを活用した内容や、オリジナルパワーポイントをもとにしたセクハラ防止についての内容、同和問題に関する内容を扱っています。少しずつ内容を変えながら、知識が定着するように工夫しています。
- ・昨年度は、LGBTQ について校内人権研修を実施しました。研修での学びを活かし、中学部連絡帳ファイルから性別による色分けを少しずつとりやめる等しています。今年度は、教職員対象の情報モラル研修を実施し、ネットトラブルに関する学校現場での対応事例や、SNS 誹謗中傷の状況から「情報社会における正しい判断や望ましい態度」を学ぶこととしています。
- ・各学部会においては、指導チェックリストに毎月 1 回取り組むことで、体罰防止等の観点から、日々の自らの指導を定期的に教員が自己チェックする機会を設定しています。
- ・校内には「みんなの相談ポスト」を設け、保護者・児童生徒・教職員の人権尊重に関すること等の相談受付を行っています。人権委員会担当管理職や首席が投書内容を確認し、すみやかに関連部署と連携して、各相談に対応しています。

●進路を決める際、就職か、訓練・福祉サービスの利用かを主に選択していくと思うが、例えば、移行事業訓練校から就職といった流れもあり、希望の持てる進路相談をしてもらえたらと思う。

⇒

- ・進路希望に関しては、毎年の進路調査だけでなく、毎学期の懇談などでも聞き取りをしながら、本人や保護者の希望を丁寧に聞くようにし、卒業時にもっとも適した進路選択ができるように心がけています。その中でも、卒業後すぐの就労ではなく、卒業後数年経ってからの企業就労を目指す生徒も毎年数人おり、そういった生徒に対しては、将来の企業就労に向けて働く力を身につけていけるように日頃から指導をしています。また将来的に企業就労のできそうな力を感じるのに「就労なんて無理」と思われている生徒や保護者についても、数年の職業訓練を積むことで企業就労の可能性もあることを伝えるなど、企業就労に希望を持ってもらえるように働きかけをしています。